

地域とともに歩む学校づくり

奈良市立学校園では、地域とともに歩む学校づくりが様々な形ですんでいます。その中では地域の方々が学校に来ていただく機会の創出や、地域人材の力を生かした実践など、活発な活動が広がっています。これらの活動をとおし、子どもたちの様子や、日々の教育活動を地域の方々に実際に見て理解を深めていただくことにより、さらなる地域と学校の協働を生みだしています。

奈良市では、平成16年度からすべての市立学校園で学校評議員制度を導入し、校長が学校運営において保護者や地域の方の意見を聞きながら学校評価（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）に取り組んでいます。学校園が教育活動を検証し学校運営の改善に努めるとともに、その結果を地域の方と共有することで地域とともに歩む学校づくりがより一層促進されています。

今回、平成23年度末に行った「学校評議員の活用」「学校評価の実施」についての調査結果をまとめました。評価のための評価に終わることなく、この結果を効果的に今後の「学校評議員制度」と「学校評価」の充実発展に反映されることが大切であると考えています。

今後も地域との連携・協力のもと、信頼される学校づくりを推進してまいりたいと思いますので、さらなる、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成24年3月

奈良市教育委員会

■ 平成23年度は428名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。

〔奈良市立学校園数：幼稚園39園、小学校47校、中学校22校、高等学校1校〕

評議員の置かれている学校実数

幼稚園39園、小学校45校、中学校20校、小中合同2校、高等学校1校

内容

1、	学校評議員制度の活用	
	【学校評議員 役職の内訳】	2
	【設置されている学校評議員数】	2
	【学校評議員の再任の割合】	3
	【校園長が学校評議員に求めた意見例】 [意見を求めた学校園数の割合]	3
	【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】	4
	【学校評議員からの意見が教育活動に活かされた例】	4
2、	学校評価の実施	
	【学校評価を進める仕組みの有無】	7
	【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】	7
	【各学校園が設定した重点的な目標（評価項目）】	8
	【各学校園が設定した評価指標（取組指標・成果指標）】	9
	【学校評価を進める上での課題】	10

【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
PTA関係	131人	31%	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	89人	21%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	63人	15%	
教職経験者	34人	8%	
各種協議会	22人	5%	人権教育協議会、安全推進協議会など
学校支援	18人	4%	地域教育協議会、地域ボランティア
指導協議会関係	18人	4%	
地域活動関係	13人	3%	
社会福祉協議会関係	13人	3%	
公民館・施設長関係	10人	2%	
万年青年	5人	1%	
一般・その他	12人	3%	

【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校園数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中一貫	高等学校	
8人		1校				1校園
5人	2園	15校	9校		1校	27校園
4人	14園	23校	9校	2校		48校園
3人	23園	6校	2校			31校園
合計（校園数）	39園	45校	20校	2校	1校	107校園
総人数	135名	193名	87名	8名	5名	428名

※大柳生小学校と相和小学校が統合再編され、平成23年度から開校した興東小学校では今年度8名の評議員が設置されました。

【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中一貫	高等学校	合計
人数(人)	86人	124人	51人	5人	1人	267人
割合(%)	64%	64%	59%	63%	20%	62%

【校園長が学校評議員に求めた意見例】

【意見を求めた学校園数の割合】

「地域の連携・協力に関すること」

〔幼:97% 小:91% 中高:100% 全体:94%〕

- ・地域との対話・支援・協同の体制づくり
- ・学校支援、学校行事への協力のあり方
- ・学校規模適正化、教育協議会
- ・学校支援ボランティアの活用、連携強化
- ・地域予算(協議会の運営)
- ・コミュニティスクール準備委員会の立ち上げ
- ・未就園児クラスの運営
- ・家庭教育力向上、子育て支援充実

「学校園に対する評価に関すること」

〔幼:97% 小:80% 中高:76% 全体:82%〕

- ・学校診断の結果報告と分析、教育効果
- ・地域・保護者の意見収集
- ・結果の広報の仕方
- ・第三者評価者の紹介依頼

「園児、児童、生徒の安全に関すること」

〔幼:69% 小:89% 中高:81% 全体:79%〕

- ・登下校の安全確保
- ・通学路の危険箇所
- ・見守り・安全確保活動の方法・体制づくり
- ・子どもたちの通学の様子
- ・防災対応・危機管理・避難訓練

「学校の目標としていることに関すること」

〔幼:77% 小:87% 中高:76% 全体:79%〕

- ・子どもの現状と課題
- ・授業参観などを通じた教育活動への理解
- ・重点目標、具体的な取組の設定
- ・特色ある教育活動、研究主題
- ・小規模校園としての取組
- ・学校ビジョン、経営方針、めざす子ども像
- ・目標達成に向けた努力点と達成度評価法

以下、「教育課程・教育内容に関すること」(全体 64%)、「学校施設・設備に関すること」(全体 : 60%) と続いています。

【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。	46%	54%	56%	60%
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能していないとはいえない。あるいは共有できていない。	54%	46%	44%	40%

各学校園で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善につながります。PDCAサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りなどで伝えている学校園も多くありますが、広く地域に知らせるためには、インターネットを使った学校ホームページなどの公開も、非常に有効な方法となります。

【学校評議員からの意見が教育活動に活かされた例】

地域との連携・協力に関すること

- ・保護者の参観や園活動への参加の仕方を検討。
- ・未就園児保育の支援ボランティアを依頼。
- ・幼小中それぞれの発達や交流の様子を見ていただいた。地域の教育力を活かす、取り入れる取組で、お茶の先生を紹介していただき、お茶会をはじめた。
- ・ふれあい観劇会で地域にも呼びかけ、広く地域の子どもや親と楽しみを共有する行事となった。
- ・地域の人材を活かした取組をするために、適材の人を紹介してもらった。
- ・園外活動時、万青・民生など地域の方に声をかけて、多くの方にボランティアで引率者として参加していただいた。
- ・地域の人材を活用し、音楽や読み聞かせ、体力づくり、花植えなど随分進んだ。
- ・地域の方から「幼稚園のことをよく知らない」、「園に行きにくい」という意見をいただき、自治会に園便りを回覧。行事などのお知らせの掲示などを行っていただいた。

- ・学期に一回を目標に授業参観へのお誘いを地域の方に行った。
- ・地域の福祉施設等との連携について相談したところ、老人介護施設との交流をコーディネートしていただいた。
- ・地域の方々をゲストティーチャーに招く学習を積極的に計画して実施する活動を取り入れた。
- ・地域の代表者が集まる会議で、「地域で決める学校予算」での印刷物等を配布し、説明した。
- ・学校・地域安全会議で審議した内容を集団登下校推進保護者会やPTA役員会で周知し実現化した。
- ・地域の伝統である米作り等にかかわる体験学習を行う際、その道の専門家を紹介いただき充実した教育活動が行えた。また、オープンスクール等のご案内を差し上げることにより、学校評議員の方による積極的な学校行事への参加・支援・助言があった。
- ・今年度は「地域で決める学校予算」を活用し、コーディネーターの方との連携を深めながら、体験的な教育活動への多くの支援をいただき教育効果をあげることができた。
- ・地域連携で寺子屋「宿題助きたい」を夏と冬に実施していただいた。
- ・「奈良を知る地域を知る」をテーマに3年間を見据えた実践を構築。
- ・夏の奉仕作業に民生委員の方々にも参加していただくことができた。
- ・学校評議員5名中4名が学校支援コーディネーターとして兼任いただき、年間10数回の会合に参加いただき、その都度助言をいただいた。
- ・今年度から小中一貫校となったことを踏まえ、地域教育協議会や少年指導協議会など、新たな組織の構築に向けてこれまでの経緯を活かしながら取り組むために協力いただいた。

園児、児童、生徒の安全に関すること

- ・降園指導の方法に、建設的な意見を頂戴し、実践した。
- ・緊急対応マニュアルの修正と自治会・消防団等関係機関と緊急時の各部署の対応を協議し、正確に素早く動ける体制づくりについて確認した。
- ・地域での児童の様子を聞き、生徒指導上の事柄に対しては、すぐに職員が対応した。
- ・挨拶について地域から高く評価していただいたことを生徒に学校だより等で伝え、より積極的に挨拶するよう指導できた。

教育課程・教育内容に関すること

- ・地域の教育力を生かした多様な体験活動を実施した。(英会話・お茶・親子体操・習字・ちびっこ探検隊等)
- ・評議員の方の中にユネスコ関係の方がおられ、幅広く活躍されていて園で行う音楽鑑賞会の演奏者を紹介していただいた。
- ・県外国語活動研究大会を開催して、地域の方々にも参加を呼びかけ、本校教育の理解に努めた。
- ・保護者・地域へ案内した土曜参観において、各学年がどのような力を育てようとしているのか掲示した。
- ・小中一貫実務者会議の定期開催。

学校園の目標としていることに関すること

- ・園長や職員が園目標に向かい自信をもって前面に出していけばよい、という意見をいただいた。目標が見えにくいと捉え、教育ビジョンを地域や保護者に配布して園の取組を伝えるようにした。
- ・園目標を玄関前に掲示することにより、保護者や地域の方にも理解していただいた。

その他

- ・幼稚園だけでなく小学校・中学校とも連携し地域の子どもたちをみんなで見守る体制づくりを行った。
- ・基本的な生活習慣の確立に向けて、おはよう・おやすみ・おてつだい約束運動に取り組み、成果を得ることができた。
- ・学校評価の評価項目の設問の吟味。よりイメージがわかる設問に改善した。
- ・授業中の言葉遣いや教育の公平さについて話し合いができた。
- ・マネジメントサイクルの確立に向けた分掌構造の改変。
- ・種々の取組で活動していただくボランティア募集のチラシを作成。

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	66%	74%	75%	79%
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	88%	90%	89%	94%

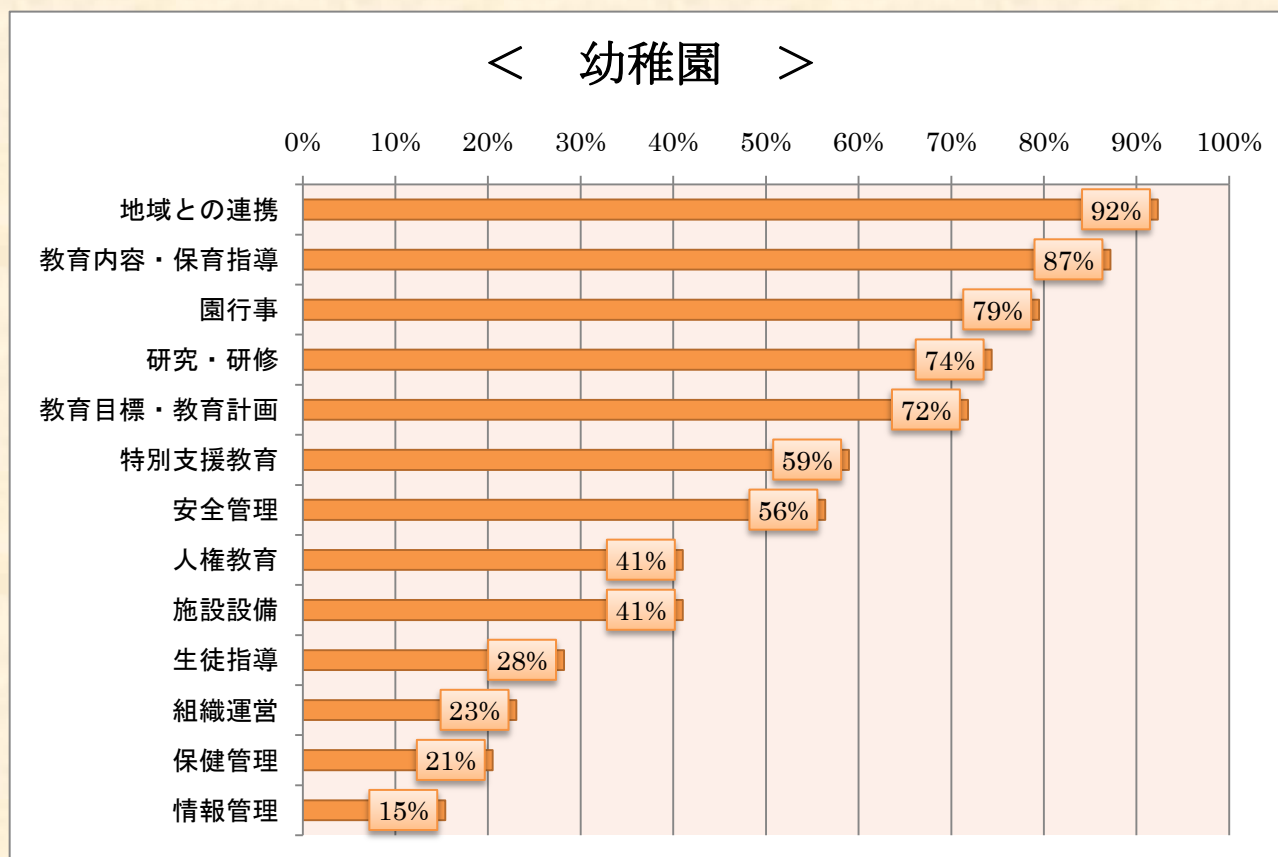
平成 23 年度内訳(校内委員会等を組織している。／全教職員が参加している。)

幼：62%/97% 小：89%/91% 中高：91%/96%

【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	合計
全教職員参加の体制で行っている。	97%	93%	78%	92%
学校評価関係教職員で行っている。	3%	7%	17%	7%
主に担当者が行っている。	0%	0%	4%	1%

【各学校園が設定した重点的な目標（評価項目）】



【各学校園が設定した評価指標（取組指標・成果指標）】

定性的指標の具体例として（成果を質的に評価する指標）

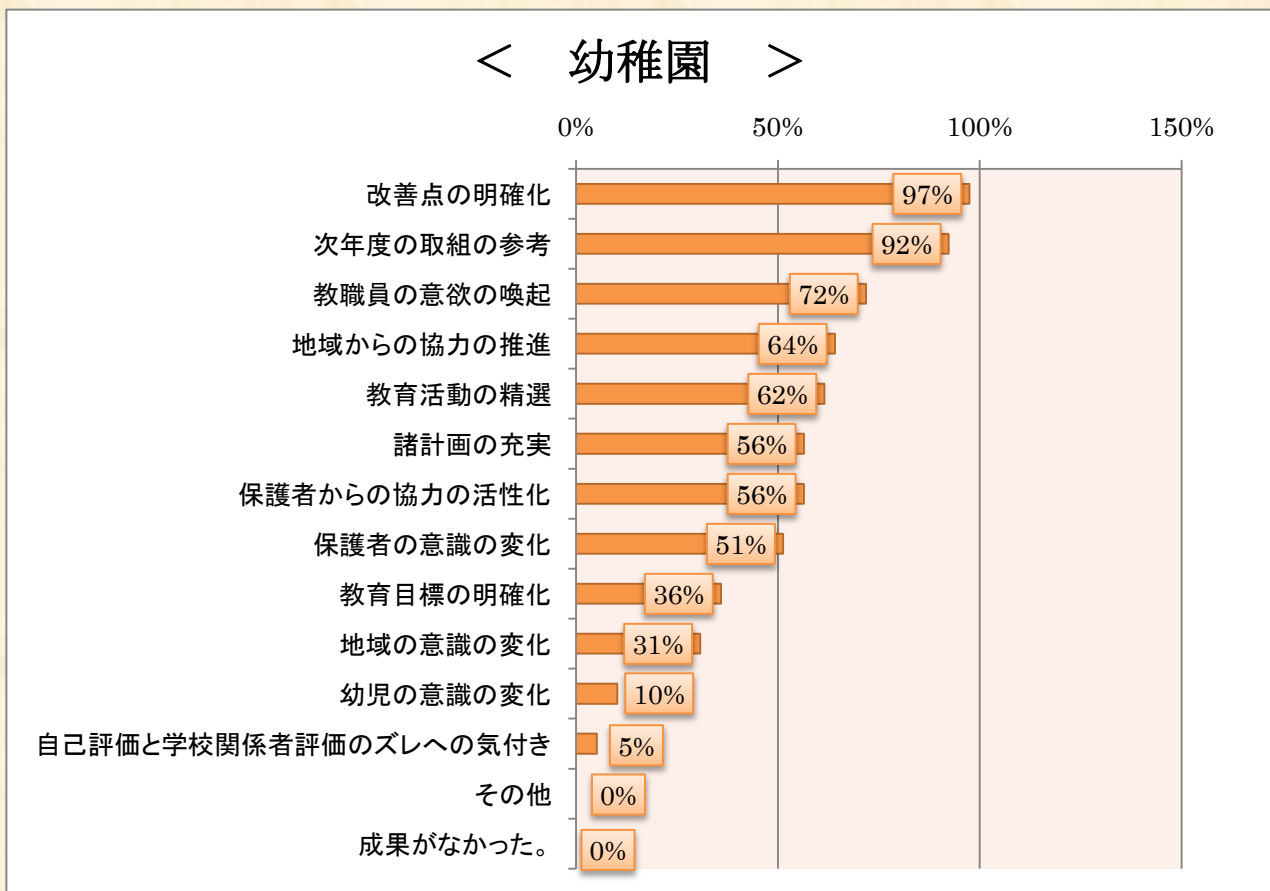
- ・ 幼・保・小・中学校と積極的な連携を行っている。
- ・ 日常安全点検と点検箇所の整備ができています。
- ・ 地域の人材を活用し指導のため来校していただいている。
- ・ 施設に関して、教職員がすすんで修理補修し環境美化に努めた。
- ・ 小学校と合同の研修会を行った。
- ・ 公開保育を実施し、大学の先生を交えた保育研究をする。
- ・ 保育内容の自由記述による保護者評価を実施する。
- ・ くつやスリッパを揃える、右側歩行、時間を守るなど、子どもの生活規律に改善が見られる。
- ・ 縦割り活動実施計画・反省・児童の活動状況確認。
- ・ 校内生指部会を週1回実施し、問題の共有化を図るとともに、定期的にケース会議を実施する。
- ・ 子どもたちが主体的・意欲的に学習に取り組んでいる。
- ・ 地域の教育力を積極的に活用し、特色ある教育を推進しようとしている。
- ・ 教師と生徒間のより良い関係がつけられている。
- ・ 行動力のある教師集団を目指す取組がすすんでいる。
- ・ 生徒の基本的生活習慣の確立をめざす取組がすすんでいる。
- ・ 学校生活で気持ちの良い挨拶が交わされている。
- ・ 各教科でシラバスが配られるなど、生徒が授業に参加しやすい工夫が行き届いている。

定量的指標の具体例として（成果を量的に評価する指標）

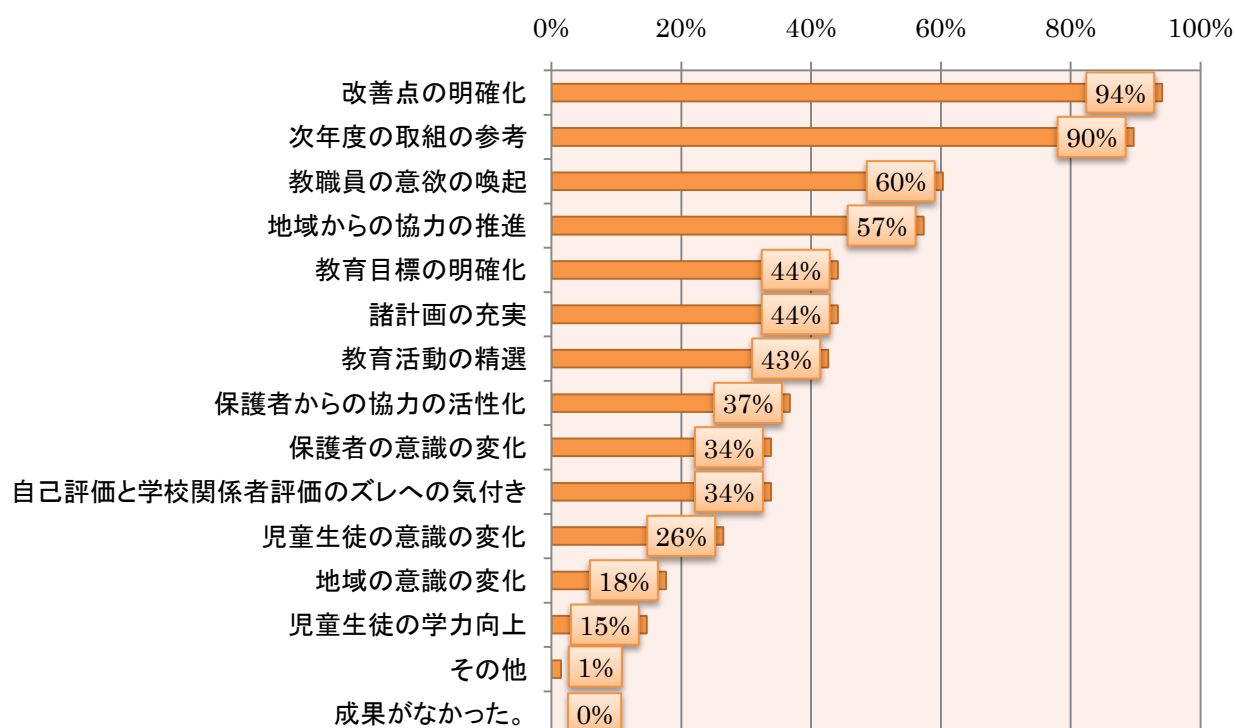
- ・ 絵本の部屋の利用回数。絵本貸出年間50冊を超える子どもが全体の80%。
- ・ 研究保育・公開保育の実施回数。
- ・ 子育て支援の会、参加率80%。
- ・ 園内研究会（指導主事による指導を含む）6回。
- ・ 保育内容研究事業実施回数年間3回。
- ・ 学校評価のためのアンケート各項目内容についての肯定的な回答率。
- ・ 全教員公開授業を行う。
- ・ 保護者・地域の方々の授業参加の回数・懇談会の回数・家庭訪問の回数。
- ・ 森林環境教育の充実。（校外1回、講師招聘5回）
- ・ 県の国語、算数の学力診断テストから、学習状況の結果。
- ・ 学校評価アンケートでの保護者の学校満足度。

- ・ 状況別保健室利用者数。
- ・ 防犯ブザー携帯率90%以上。
- ・ 児童の学力・体力向上プロジェクトの効果について4段階評価。
- ・ 児童の生活習慣獲得の達成度について4段階評価。
- ・ パソコン、図書館教育の授業実施回数。
- ・ 研究主題に対する周知度並びに達成度。
- ・ 幼小連携の研究授業実施回数。
- ・ 校内研究授業を年7回14時間実施、内2回は全教員参加で外部講師を招聘して実施する。
- ・ 年間 20 号の学校だよりを発行する。
- ・ いじめ・嫌がらせの報告件数を前年度比(-1p)とする。
- ・ 学校評価の関係項目を前年度比(+3p)とする。
- ・ 補習授業への申込者数。
- ・ ホームページ更新回数。

【学校評価を進める上での課題】



＜小学校・中学校・高等学校＞



学校評価が各学校で進む中、本来の目的である教育活動や組織運営の改善につながっていないのではないかという指摘があります。また、評価を得るまでの労力が大きく、それに見合うほどの活用ができていないとの声もあります。今回実施したアンケートでも、学校評価の実施についてさらなる工夫改善が必要だとの意見がいくつか書かれていました。

文部科学省「学校評価の好事例の収集・共有に関する調査研究（平成 20, 21 年度）」及び「学校関係者評価の充実・活用に関する調査研究（平成 22 年度）」などを受託し情報収集を行った野村総合研究所の調査・アンケートによると、評価を活用し学校改善につなげることができている学校と、できていない学校の違いを以下のように指摘しています。

- 教職員間で現状分析を積み上げたうえ、目標の設定が確実に行われているか。
- 年度当初に具体的に何を行えばいいのかがわかる目標が設定されているか。
- 学校改善を実行できる機能的な校務分掌を組織できているか。
- 学校関係者評価において、目的に応じた人選や、学校のよいところを見出す評価の姿勢があるか。

評価の指標は、「理想の学校」に続く一段一段の階段にあたります。子どもたちにとって心地よい居場所があり、ここで学びたいと思える学校づくりに向けた具体的な目標設定が、学校評価において最も大切な作業となります。

目の前の子どもの状況を分析し、その中から課題を見つける過程では、管理職を含めた十分な教職員間の話し合いが必要です。実現可能な評価項目を設定し、それを共有しながら、子どもや地域の方々とともに学校づくりを行うことが、学校評価を行う一番大切な理由となります。